



▲看板や求人票はみんな手づくり。



▲子どもたちの考えや自主性を尊重するので、サポート役の大人スタッフのアドバイスはほんの少しだけ。

僕たち警察官がまちとみんなを守るよ!

見つめよう korekaraのまちづくり

「自分たちの力で、この『まち』を作り上げたよ!」

〜夢と未来にきつとつながる! 初めてのまちづくり体験〜



▲ミニさいたまでは市長選挙も実施。本物の投票箱に子どもたちが投票しました。



▶許可なく入場した大人は「逮捕」するぞ!と意気込む警察官。



▲公募で集まった子どもスタッフ。まちづくりを通して、友情やチームワークが育っていきました。



▲ミニさいたまで使える「ヌウ」の通貨や市民証(上)、市民登録を呼びかけたチラシ(下)は、いずれも子どもスタッフの力作です。



工作が好き! ポスター作りが楽しかったよ

▲「お天気お姉さんになってみたい」「放送を1回やってみたい」と、意気込みを語ってくれました。



▲働いた店・労働時間などを記したカードを銀行で見せ、「お給料」をもらいます。



▲「新聞社」では、記者になった子どもたちがお店を取材し、記事を執筆中。



古本いかがですかー! みんな見に来てー!!

私たちのお店で もっとがわいしくしておける!



▲「まちをささえる」「おいしいものをつくる」「あそびをつくる」など、当日は1500人もの「子ども市民」がこのまちを訪れました。(プラザノース前 市民広場)



▲まちをささえる掃除屋さんの仕事。みんな熱心にぼうぎで掃いていました。



▲事前に登録した「子ども市民」は、仕事案内所へ行って興味のある仕事を探し、お店で働きます。



▲「おしゃれをうみだす」仕事のヘアサロンは、女の子に大人気。

スタッフ38人 子ども市民で1500人 まちづくりにチャレンジしたよ!!



子どもたちが主役のまちづくり「ミニさいたま」ができた!
「ピーズ細工が好きなので、アクセサリー屋さんをやってみよう!」。「将来の夢は看護師。『病院』で働くとか学べるかも」。そんな子どもたちのさまざまな夢が、この日、小さなまちの中で大きく花開きました。
「ミニさいたま」は、ドイツで30年以上続く「ミニミニムンヘン」をモデルにし、子どもがまちで働き、お金を稼ぎ、そのお金を使って遊ぶまちづくり体験。子どものまちづくりへの参画を目的に、NPO法人子ども文化ステーションが主催し、マッチングファンド事業による市との協働で平成22年11月に初めて開催しました。38人の子どもスタッフがたったまちには、お店のほか警察署や市役所、郵便局もあるなど、身近なまちを子どもたちがじっくり観察し、準備したことがうかがえます。

私たちのまちに何が必要? まちのルールをみんなで会議

子どもスタッフは7回の「まち会議」を重ね、まちのルールや仕組みをひとつずつ決めていきました。大人は子どもたちの自主性にまかせて、口出しはしません。子どもたちは「それぞれの意見をまとめることがとても難しかった」といいます。でも、「友達といっしょに考えたり、大人に指示されなくて、自分たちで案を出したところが楽しかった!」と、みんな目を輝かせて話してくれました。「ミニさいたま」での職業体験や自治体験、「ミニミニティづくり」は、自分たちの住むまちや社会に関心をもつ、大切な一歩につながることでしょ。

問合せ
子ども未来局子ども育成部子育て企画課
TEL 048-829-1909